科目名	職務の理解				
到達目標	研修に先立ち，これからの介護が目指すべき，その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について，介護職がどのような環境で，どのような形で，どのような仕事を行うのか，具体的なイメージを持って実感し，以降の研修に実践的に取り組めるようになる。				
指導の視点	●研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし，学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ●施設長より実際の施設現場を写真に撮り,スクリーンに投影しながら，介護職が働く現場や仕事の内容を，出来るかぎり具体的に説明して理解させる。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
多様なサービスの理解	1.0	1.0		・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス	・介護保険による居宅サービスの種類と，サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険による施設サービスの種類と，サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と，サービスが提供される意義や目的を理解する。
介護職の仕事内容や働く現場の理解	5.0	5.0		■施設長による講演：3H（施設実習代替え） ■Web動画視聴・講義：2H ・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供にいたるまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ	・各種サービスの内容や利用者像などを通じて，介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・ケアマネジメントを通じて，介護サービス提供にいたるまでの流れを理解する。 ・チームアプローチの必要性と，具体的な連携方法を理解する。
授業時間数合計	6.0	6.0	0.0		

【Web動画について】
●第1巻対応のWeb動画は，第1巻第1章「職務の理解」の科目内容に相当する視聴覚教材である。
研修に先立ち，介護職がどのような場で，どのような利用者に対して，どのようなサービスを提供するのか，具体的なイメージをもつことができるように，実践的な取り組みを紹介する内容になっている。
●具体的には，①訪問介護，②通所介護，③認知症対応型共同生活介護，④小規模多機能型居宅介護，⑤介護老人福祉施設，⑥障害福祉サービスを取り上げている。

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援				
到達目標	介護職が，利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し，自立支援，介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。				
指導の視点	●具体的な事例を複数示し，利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと，自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い，自立という概念に対する気づきを促す。 ●具体的な事例を複数示し，利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ●利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ，尊厳という概念に対する気づきを促す。 ●虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い，高齢者虐待に対する理解を促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
人権と尊厳を支える介護	6.0	1.0	5.0	・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止	・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点（ICF，QOL，ノーマライゼーション）について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
自立に向けた介護	3.0	0.5	2.5	・自立支援 ・介護予防	・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために，介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。
授業時間数合計	9.0	1.5	7.5		

科目名	介護の基本				
到達目標	●介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき，職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ●介護を必要としている人の個別性を理解し，その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。				
指導の視点	●可能な限り具体例を示す等の工夫を行い，介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ●介護におけるリスクに気づき，緊急対応の重要性を理解するとともに，場合によってはそれに一人で対応しようとせず，サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護職の役割， 専門性と多職種との連携	2.0	1.0	1.0	・介護環境の特徴 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種	・介護環境の特徴（施設と在宅との違い，地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。 ・介護の専門性について考え，専門職に求められるものが何かを学ぶ。 ・多職種連携の目的を学び，利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
介護職の職業倫理	1.0	0.5	0.5	・専門職の倫理の意義 ・介護福祉士の倫理	・介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。
介護における安全の確保 と リスクマネジメント	1.5	1.0	0.5	・介護における安全の確保 ・事故予防，安全対策 ・感染対策	・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。
介護職の安全	1.5	0.5	1.0	・介護職の心身の健康管理 ・感染予防	・介護の特徴をふまえて，介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 ・介護職に起こりやすいこころとからだの病気や障害について学ぶ。 ・介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
到達目標	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的，サービス利用の流れ，各専門職の役割・責務について，その概要のポイントを習得する。				
指導の視点	●介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として，介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ●利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し，その生活を支援するための介護保険制度，障害福祉制度，その他の制度のサービスの位置づけや，代表的なサービスの理解を促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護保険制度	4.5	0.5	4.0	・介護保険制度創設の背景および目的，動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・制度を支える財源，組織・団体の機能と役割	・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで，制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに，制度の財政について学ぶ。
医療との連携と リハビリテーション	2.5	0.5	2.0	・医療行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション	・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。
障害者福祉制度および その他の制度	2.0	0.5	1.5	・障害者福祉制度の概念 ・障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要	・障害者福祉制度における障害の概念について，その歩みをふまえて学ぶ。 ・障害者福祉制度の基本的なしくみについて理解する。
授業時間数合計	9.0	1.5	7.5		

科目名	介護におけるコミュニケーション技術				
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと，その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し，初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。				
指導の視点	●利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ，相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ●チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性，重要性を理解するとともに，記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。				
授業項目	**時間数**	通学	通信	**目標・講義内容・学習課題の概要等**	**学習のポイント**
介護における コミュニケーション	**4.0**	2.0	2.0	・コミュニケーションの意義，目的，役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して，利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
介護における チームのコミュニケーション	**2.0**	1.0	1.0	・記録における情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションをうながす環境	・介護における記録の意義と目的を理解し，書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し，具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し，具体的な進め方について学ぶ。
授業時間数合計	**6.0**	3.0	3.0		

科目名	老化の理解				
到達目標	加齢･老化に伴う心身の変化や疾病について，生理的な側面から理解することの重要性に気づき，自らが継続的に学習すべき事項を理解する。				
指導の視点	●高齢者に多い心身の変化，疾病の症状等について具体例を挙げ，その対応における留意点を説明する。 ●介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。				
授業項目	**時間数**	通学	通信	**目標･講義内容･学習課題の概要等**	**学習のポイント**
老年期の発達と 老化にともなう心身の変化の特徴	**3.0**	1.5	1.5	･老年期の定義 ･老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴 ･老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	･老年期や高齢者の定義について理解する。 ･老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ･老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ･多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
高齢者と健康	**3.0**	1.5	1.5	･高齢者の症状･疾患の特徴 ･高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ･高齢者に多い病気と日常生活上の留意点	･高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど，その特徴について理解する。 ･高齢者に多い病気の原因や特徴，その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
授業時間数合計	**6.0**	3.0	3.0		

科目名	認知症の理解				
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき，認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。				
指導の視点	●認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により，認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し，介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ●複数の具体的なケースを示し，認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
認知症を取り巻く環境	1.0	0.5	0.5	・認知症のケアの理念 ・認知症ケアの視点	・「認知症を中心としたケア」から，「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく，人として接することを理解する。 ・できないことではなく，できることをみて支援することを理解する。
医学的側面からみた 認知症の基礎と健康管理	2.0	1.0	1.0	・認知症とは ・認知症の診断 ・認知症の原因疾患とその病態 ・認知症の治療と予防	・老化のしくみと脳の変化を学び，認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 ・アルツハイマー型認知症，血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態，症状について学ぶ。
認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活	2.0	1.0	1.0	・認知症の人の生活障害，心理・行動の特徴 ・認知症の人への対応	・認知症の症状を知ることによって，どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても，その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。
家族への支援	1.0	0.5	0.5	・家族への支援 ・認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア	・家族介護者の介護の大変さについて理解し，レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく，ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	障害の理解				
到達目標	障害の概念とICF，障害福祉の基本的な考え方について理解し，介護における基本的な考え方について理解する。				
指導の視点	●介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ●高齢者の介護との違いを念頭におきながら，それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
障害の基礎的理解	0.5	0.5		・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念	・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・国際生活機能分類（ICF）にもとづきながら，「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション，リハビリテーション，インクルージョン）について理解する。
障害の医学的側面， 生活障害などの基礎知識	2.0	1.0	1.0	・身体障害 ・知的障害 ・精神障害 ・発達障害 ・難病	・障害の原因となるおもな疾患を理解する。 ・障害にともなう心理的影響，障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し，介護上の留意点について学ぶ。
家族の心理， かかわり支援の理解	0.5		0.5	・家族の理解と障害の受容支援 ・介護負担の軽減	・家族支援は，家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ・日本に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。
授業時間数合計	3.0	1.5	1.5		

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術				
到達目標	●介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し，安全な介護サービスの提供方法等を理解し，基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ●尊厳を保持し，その人の自立及び自律を尊重し，持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
指導の視点	●介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら，視聴覚教材や模型を使って理解させ，具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ●サービスの提供例の紹介等を活用し，利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ●例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え，その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに，その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ●「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように，身近な素材からの気づきを促す。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
【介護に関する基礎的理解】					
介護の基本的な考え方	1.5	1.0	0.5	・理論にもとづく介護 ・法的根拠にもとづく介護	・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。
介護に関する こころのしくみの基礎的理解	3.0	1.5	1.5	・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因	・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 ・自己概念と生きがい，老化や障害の受容に関する基礎的知識を理解する。
介護に関する からだのしくみの基礎知識	5.5	2.5	3.0	・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識	・生命の維持・恒常のしくみを理解する。 ・骨や関節など，からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と，そのはたらきを理解する。 ・眼や耳，心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。
【自立に向けた介護の展開】					
生活と家事	6.0	3.0	3.0	・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援	・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助（調理，洗濯，掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。
快適な居住環境整備と介護	6.0	6.0		・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用	・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで，住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。
整容に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	6.0	6.0		・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術	・整容の必要性と，整容に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し，整容の介護を行うための技術を身につける。

移動・移乗に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	**7.0**	6.0	1.0	・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援	・移動・移乗の必要性と，移動・移乗に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し，移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。
食事に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	**6.0**	6.0		・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援	・食事の必要性と，食事に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し，食事の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。
入浴・清潔保持に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	**6.0**	6.0		・入浴・清潔保持に関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法	・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と，入浴に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力をいかし，楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。
排泄に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	**6.0**	6.0		・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	・排泄の必要性と，排泄に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し，気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。
睡眠に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	**6.0**	6.0		・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法	・睡眠の必要性と，睡眠に関するこころとからだのしくみを理解する。 ・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。
死にゆく人に関連した こころとからだのしくみと 終末期介護	**6.0**	3.0	3.0	・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援	・終末期のとらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し，状況に合わせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し，こころの変化の受け止め方を学ぶ。
【生活支援技術演習】					
介護過程の基礎的理解	**3.0**	3.0		・介護過程の目的，意義，展開 ・介護過程とチームアプローチ	
総合生活支援技術演習	**7.0**	7.0		生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ●事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 （1 事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する） ●例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2つの事例を選択して実施する。 ・その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促す。 ・一連の演習を通して受講者の技術度合いの評価（介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認等）を行う。	
授業時間数合計	**75.0**	63.0	12.0		

【Web動画について】
●第2巻対応のWeb動画は，第2巻第2章「生活支援技術」の科目内容に相当する視聴覚教材である。
尊厳の保持，利用者主体，自立支援，安全などの生活支援技術の基本理念を，食事・入浴・排泄といった生活場面において，「介護」という技術でどのように提供すればよいのか確認できる内容となっている。
●具体的には，①～⑧についてよい例と悪い例の比較もふまえながら，「なぜそのような方法で行うのか」という各技術の根拠とポイントを解説していく。
①臥位から座位への体位変換　②座位から立位への体位変換　③車いすへの移乗の介助　④食卓で行う食事の介助　⑤個浴槽で行う入浴の介助　⑥トイレで行う排泄の介助

科目名	振り返り			
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。			
指導の視点	●在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ●研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ●修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ●最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等・学習のポイント
研修全体の振り返り	3.5	3.5		1. 振り返り ●研修を通して学んだこと ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点 （利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ●継続的に学ぶべきこと ●研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	0.5	0.5		
授業時間数合計	4.0	0.0	0.0	